

棚田通信



NO15 2012.6

美しい石積み棚田の里だより

NPO法人 恵那市坂折棚田保存会

坂折棚田周辺の景観

1920年～1940年（昭和の始めころ）の坂折棚田周辺の風景はどんなであったらうか。当時の稲づくりは、肥料はなく、山草を刈り堆肥化したり、刈り干しておいて乾燥させて田に入れたり、あるいは刈り取った山草を生のまま田に入れ足で踏みこんでいました。その山草は棚田周辺の山から刈り取っていたのです。大切な資源（肥料）として、大変重要視されていました。当時の農作業は春から夏にかけては山草（柴ともいう）刈り、運搬に相当時間を用いていたのです。

さて現在は、山草が必要でなくなったこと、杉、桧が高値で売れたこともあって、かつて山草を刈っていたところまで植樹が行われた結果、すっかり風景が変わったのです。棚田に杉、桧がせまってきたようで、昔から思うと、年中常緑ですから、四季という変化が（春は若芽、夏は緑、秋の紅葉、冬には枯れ木）なくなってしまいました。

どちらがよかったですでしょうか、昔は棚田周辺が山草で肥料源として刈り取られていますから視野は広く、しかも水田への日照が多く、稲の生育もよかったですでしょう。しかも、落葉樹が多かったことは、保水力があり、水の浄化作用がありますから、美しい水が流れていたと思います。棚田周辺の景観を見直すことの必要を痛感しています。

（田口）



伐採前



伐採後

～伊藤憲男写真集『坂折棚田物語』好評発売中～

美しい棚田の四季が物語となっています

限定販売です お早めにお求め下さい

お土産にも大変喜ばれます



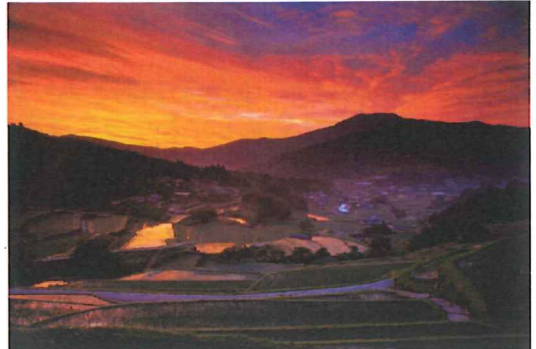
価格 1冊 2,000円



棚田の暮し

新緑のさわやかな季節となり、坂折棚田では、田植が始まりました。かつて、坂折棚田の田植えは、6月下旬でした。麦の収穫を終わってから、田植えをするための準備をして、田植です。もちろん手植えです。それが、機械化が進んできたので、稚苗を植えるため早くなったのです。5月の風を受けて、田植機で軽快に田植ができるようになりました。

6月の梅雨をさけての田植ですが、作業は、実に快適に行えるのです。棚田の風景で、最も良い時期が、代掻きが終わり、田に水をたたえるようになったときです。笠置山の左側から昇る太陽が、水面に反射して、刻々と変わる景色、時には赤やピンクになったり、青色になったり、紫色にと変化する様は実にみごとなものです。私は、この風景が最も好きです。写真家の方が、その変化の一瞬をとらえようと、必死でシャッターチャンス逃がさないようにと、撮影に集中されるときです。



Phot by 大野 隆雄

あるときは大雨に、またあるときは大干ばつに、台風を受けたりして、自然との共生で今日の美しい景色が出来上がったのです。朝日に手をあわせ、夕日に感謝するという、自然の恵みを身に感じ、代々伝えて、今日があるのです。このように一家族が、親から子へ、子から孫へと伝えてきた結果、今日の美しい石積みの棚田があるのです。

これからも、このようなくらしが続けば、棚田の保全も何等心配ありません。

生活の中心が、農業から他の産業に変化したから、棚田という環境がを維持し、保全することが、極めて困難になったのです。

棚田百選に選定されたことを契機にして、保存会が発足し、今日の姿を広く国民の皆様に伝え、しかも次世代へと残すべく、活動を続けます。多くの皆様のご支援をお願い致します。



権現山山伏岩より望む坂折棚田全景 phot by 伊藤 憲男



「きのこ」オーナーの試み

坂折棚田の広場に向かって左側に、荒廃していた棚田を修復したところの周辺は、イバラ、フジなどつる性植物が繁り、荒廃した里山になっていました。中にはかつて山草として利用していた、マキ、リョウブ、サクラなどの落葉樹が大きく育っていました。そこで、景観をよくするため雑木を伐採し、ナメコ、シイタケ、ヒラタケを植菌しました。植菌にあたっては、オーナーさんを募集し、その方々と会員とで3月に植菌作業を実施しました。秋には収穫できるので楽しみです。今後は、もっと充実して行き、棚田特産にしたいと思っています。



雑木伐採作業



きのこ植菌作業風景



トピックス

※5月8日ぎふチャンネル「ニュース5プラス」の取材があり、田植え体験の映像などが5月18日（金）17時30分より放送されました。

※5月11日CBC「花咲かタイムズ」の取材がありました。女性お笑いタレントのハリセンボンのはるかさんと春菜さんのお二人が、坂折棚田で、田植えの体験をされました。その模様は、5月26日（土）に放送されました。



坂折棚田で見る932年ぶりの金環日食

日本で、広範囲に金環日食が見られるのは、932年ぶりだという。しかも日本の中で一番良く観測できたところは、恵那市の坂折棚田であったと思います。

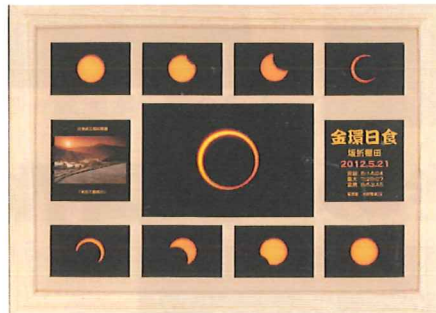
5月21日午前7時29分、棚田広場から見る金環日食は、好天に恵まれ明瞭に見えました。

932年前は、1080年で、保元の乱が終り、源平争乱の時代に入る頃です。

中世の恵那市中野方町はどんなであったのでしょうか、正しく知ることはできませんが、その頃も、立派な村落があったことは確かで、花山法皇が中野方心観寺に立寄って（1006年）「眺めつつ笠置の山と名づけしはこれも笠置くしるしなりけり」と和歌を詠まれ、笠置山と名付けといわれています。

では金環日食は、当時の村人はどう思ったことでしょうか。おそらく古事記にある、天の岩戸のような、自然の恐ろしき、神の存在を知ったことでしょうか。

5月21日に坂折棚田の金環日食を、最新の技術を屈指してカメラでとらえた方がいます。写真家の大野隆雄さんです。笠置山左の峰から昇る太陽が金環日食時には一瞬暗くなり、気温が下がり、自然の現象の偉大さを感じました。太陽の恩恵を知らされる、即ち自然の恵みを感じずる一瞬でありました。この記録写真は二度と撮ることは出来ません。素晴らしい金環日食の写真になりました。



金環日食額
お茶番処で
好評発売中！

第7期オーナー田植え行われる



5月26日（土）好天に恵まれて実施されました。
棚田汁の昼食で、和気あいあいのうちに終了しました。

お知らせ

*** 案山子コンテストを行います。**

- ・ テーマ 自由・受付 坂折お茶番処
- ・ 出品締切り 平成24年8月31日
- ・ コンテスト審査 平成24年9月29日

*** 第7回フォトコンテスト作品募集中**

詳細はHP、チラシ等参照のこと

あとがき

はやくも、2012年も半分過ぎようとしています。棚田通信15号を無事発行でき、ほっとしています。これも読んでくださる皆様のおかげと感謝しています。今回の記事はいかがだったでしょうか、皆様からの、読後の感想、投稿をお待ちしています。

NPO法人恵那市坂折棚田保存会 電話：0573-23-2032 * FAX：0573-23-2046 * 携帯：080-1553-0315

E-mail：sakaori-tanada@ial.itkeeper.ne.jp ホームページ：http://sakaori-tanada.com